

正しい知識で適切な距離を

「身の周りの電磁波」対策解説 つくば

～上田さんが提案する電磁波対策～

◆家庭編

- ・IH調理器：中心の円を完全に覆うような大きな鍋を使う
- ・電子レンジ：切り替えスイッチつき電源タップなどを使い、使用時以外は電源を切る
- ・電話：コードレスの子機は電池を抜き使わないようにする
- ・無線LAN：机のすぐ下などに置かず、人の居場所から離して設置する
- ・LED電球：異様に安価な外国製品は安全基準を満たしていない場合があるので注意
- ・蛍光灯：勉強机などで頭に近づけすぎない
- ・ホットカーペットや電気毛布：なるべく使わない

◆携帯・スマホ編

- ・耳から1.5メートル離して使う
- ・通話はつながらなかったことを確認してから耳に近づける
- ・ポケットに入れたまま寝ない
- ・体の近くに置いたまま寝ない

◆外出先編

- ・店舗の盗難防止ゲートの近くに長時間いない。
- ・電車のモーター部分の近くに立たない（「モ」記号があるのがモーターつき車両）



電柱の変圧器（ボルトトランス）つくば市市電

会場はつくば市内のマンション。オール電化マンションなので「電磁波だらけ？」と心配する参加者もいたが、室内の電磁波は低く、建物から20メートルの距離にある線路を電車が通る際に測定しても変化はなかった。電磁波が強く発生するのは電機機器の稼働時や通信機器の発信・受信中だ。電柱の変圧器のすぐ近くや、高圧送電線の密集区域にある家屋は一日中電磁波にさらされるおそれがあるとし、欧米の一部では公共施設の近くには送電線を建設しないなどのルールがあるが「日本は対策が遅れている」と説明した。携帯電話は安全率を考慮して比較吸収率（SAR）が規定されている。携帯電話の連日長時間使用で脳腫瘍のリスクが上昇する、電磁波により精子の質がわずかに低下するといった研究報告があるが、携帯が原因と限定できる被害は立証されていない。人体への影響はさらに長い年月を経ないとわからないが、都市部ではどこへ行っても電機・通信機器に取り囲まれていて複合的に強く電磁波を浴びる可能性があり、過敏な体質の人や妊婦は注意するに越したことはないという。家庭内については出力が高いものほど電磁波も強いが、具体的な対処法「メモ参照」を聞いた参加者らは「それならできそう」とうなずいていた。

市民科学研究室代表 上田昌文さん

つくば・市民ネットワーク子ども部会主催の学習会が29日に行われた。13人が集まり、「身の周りの電磁波」メモ参照をテーマに東京のNPO法人・市民科学研究室代表の上田昌文さんに話を聞いた。（古賀由美子）



電磁波測定器を手に話す上田昌文さん＝つくば市研究学園

電磁波は体内にとどまることはなく、適切な距離をとれば問題ない。電磁波の性質上遮断は難しく、上田さんは「市販の電磁波遮断グッズの割は効果がない」と話し、正しい知識を持つことが正しい警告だ。

◆NPO法人 市民科学研究室 <http://www.csij.org/>

memo 電磁波
電界（電気の力が働く場）と磁界（磁気の力が働く場）の变化により作られる波。電気のある所には必ず電磁波が発生する。波の高さと長さにより周波数が区別される。